

支援の楽しさ 児童に話す

世界の貧しい村で道を直すNPO理事長



世界の貧しい村の道を直す活動を母校の児童に語る木村理事長

(京都市左京区・第四錦林小)

母校の左京・第四錦林小訪問

世界で貧しい村の道路を土のうで補修する活動に取り組んでいる京都市左京区のNPO法人(特定非営利活動法人)「道普請人」の木村亮理事長(47)が二十六日、母校の第四錦林小(同区)を訪れ、人のために働く楽しさや、思いついた考えを実行に移す行動力の大切さを児童に伝えた。

五年と六年生計百四人が参加した。木村理事長は安い費用で誰でも簡単にできる土のうでの道直しの特徴を説明し、「彼らの生活に本当に役立つ支援は何か、考え抜いた答えが土のうを使うことだった」と語った。

さらに「誰もやってないことを始めるのを怖がらず、自分が最初だからこそ面白いと思うようになってほしい」と児童に呼びかけた。

話を聞き終えた子どもたちは「困っている人のために知恵を絞って頑張っているのがすごいと思う」と感心していた。

(高元昭典)

木村理事長は京都大産官学連携センター教授でもあり、基礎工学が専門。「難しい技術でなく、簡単な方法で多くの人を幸せにしたい」と、学生ら

2008年 2月27日 京都新聞朝刊